

地権者意見交換会でいただいた主な意見

跡地利用計画に関する意見

- ・「みどりの中のまち」の考え方は、素晴らしいと思う。
- ・小中高等学校で、跡地利用について考えてもらう機会をもっとつくりたい。
- ・基地跡地の境界沿いに周回道路（歩車道）を整備し、あわせて自動運転レーンの整備を行えば、観光資源として活用でき、かつ進入車両の抑制と渋滞緩和にもつながるのではないか。
- ・交通網を検討するにあたり、環境には配慮してほしい。
- ・返還後、既存の滑走路は活用されるのか。救援用の飛行機が着陸できるようにするなど、災害時に活用できるようにした方がよいのではないか。

大規模公園に関する意見

- ・維持管理まで考えておくことが大切である。
- ・国営にして、地主の負担を減らすべきである。
- ・世界的な公園として実現できないか。
(宜野湾市だけでなく世界に通用するような)

周辺市街地に関する意見

- ・字ごと（地域ごと）の意見交換は行っているのか。
- ・自分が現在住んでいる地域（周辺市街地）が、将来どうなるのかということが一番関心あるため、跡地利用計画全体の説明だけでなく、字ごと（地域ごと）の計画も説明いただけるとよい。



テーブルごとの取りまとめ発表のようす

産業の振興に関する意見

- ・働く場をどのように考えているか。シンガポールのようなまちを目指してほしい。
- ・大学を誘致することで学生が集る。また、IT産業などのような企業も進出するのではないか。
- ・基地跡地に最も近いモノレール浦西駅や西海岸など、周辺に存在する施設や地域資源との連携を考える必要がある。
- ・仮に産業がない場合でも、人が訪れるようなまちにするためには何が必要か、考える必要がある。

みどりに関する意見

- ・大山田いも畑の土地、緑地を守る必要がある。跡地の開発に伴い、周辺市街地の緑がなくなることは避けてほしい。
- ・緑は心が落ち着くため必要と私は考えているが、将来的にまちを活用する世代である我々の子供や孫の世代の人達にとって、緑は必要であると考えerのかどうか、将来の話であるため現時点では見えないところがある。

その他意見

- ・基地内への立ち入りができれば、地権者の関心を惹くことができるのではないか。西普天間住宅地区跡地を見てもらうことも、手法の一つではないか。
- ・跡地利用計画の検討が行われていることを今日初めて知った。
- ・地料で生活している方も多いため、例えば国に賃貸できるような方法があれば、土地活用方法も広がるのではないか。
- ・計画内容はよいと思うが、地料をあてにしている地権者もいるため、地権者が損をしないような土地利用を考えていけるとよい。

跡地利用計画の検討には、地権者の皆さまのご意見が非常に重要となります。今後も継続して、皆さまが意見交換できる場づくりを行っていきますので、今後とも積極的にご参加いただけますようお願いいたします。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号

電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。

情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.56

2023
March
3月 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に関する最新情報をお伝えします。

地権者意見交換会を開催いたしました

地権者の皆さまを対象とした「地権者意見交換会」を3年ぶりに下記日程で開催し、延べ60名の皆さまにご参加いただきました。

地権者意見交換会では、普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組みや「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」の活動等について報告後、皆さまと意見交換を行いました。

なお、意見交換でいただいた主な意見は、裏面でご紹介していますのであわせてご覧ください。



意見交換会のようす

【日程】 ◆令和4年11月24日(木) 昼の部・夜の部 ◆令和4年11月27日(日) 昼の部

【場所】 宜野湾市役所

- 【意見交換会の内容】
1. 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組状況等について（説明）
 2. 若手の会について（活動紹介・検討内容報告）

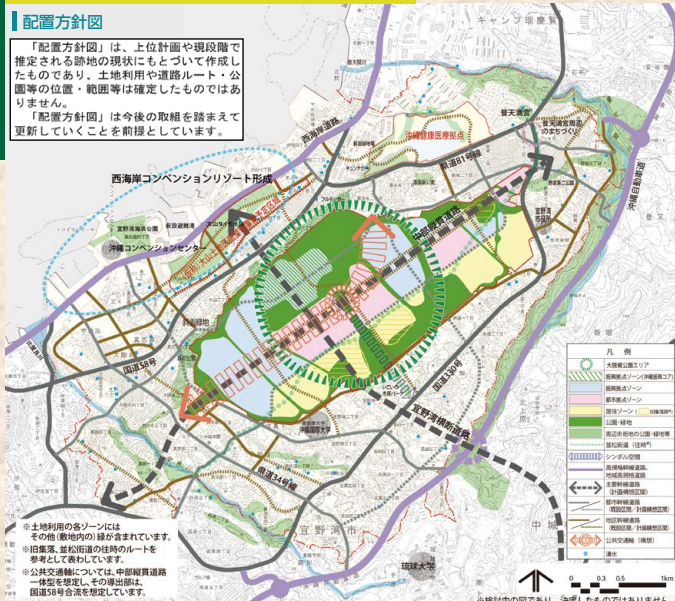
令和4年7月に策定・公表された「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の概要とあわせて、跡地利用計画策定に向けたこれまでの各種取組、若手の会の活動内容の紹介を行うとともに、令和3年度に検討した「都市基盤整備について」の概要説明を行いました。その後テーブルを囲み、跡地利用計画の内容に関する質問や今後のまちづくりに向けて必要なことなど、参加者の皆さまと活発な意見交換を行いました。

普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」について



左のQRコードから、全体計画の中間取りまとめの概要とパンフレットを見ることができます。

未来のまちのイメージ



振興拠点ゾーン

「振興拠点ゾーン」は、とても大きな公園がある自然豊かな場所です。緑に囲まれるまちなかには、最先端の研究所や企業が集まり、ビジネスと交流が活発に行われているイメージです。



都市拠点ゾーン

「都市拠点ゾーン」は交通の乗り換え拠点があったり、お店や飲食店などの人気が集まる施設、市民のための施設があります。まちの中心地として、魅力的で便利な場所をイメージしています。



居住ゾーン

「居住ゾーン」は豊かな緑のなかに住宅地が広がっています。地域の歴史的な場所や文化財が大切に保存されていて、美しい松の並木道がいこの場をつないでいます。



● 普天間飛行場跡地利用計画を考える

まちづくり講座(全2回)を開催しました!!

地権者や市民も一緒に、普天間飛行場跡地のまちづくりに取組めるようまちづくり講座を開催しています。今年度は、「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」をテーマとして、第1回を1月21日(土)、第2回を2月17日(金)に開催しましたので、概要をご報告いたします。

当日の動画(第2回)は、YouTubeに公開しておりますので、皆さまぜひご視聴ください。

第1回 まちあるき in ぎのわん

主な意見(一部抜粋)

【ふんしんせせらぎ通りの活用】

- 四季折々でイベントを開催する。
- 平成4年に手づくり郷土賞受賞している通りである。ふんしんせせらぎ通りをPRし、観光客を呼び込みたい。
- フリーマーケット、マルシェの開催。

【伊佐児童公園の活用】

- イベントを開催する。グランドゴルフ大会などのイベントを開催する。近隣の住民も参加できるイベント(自治会活動)を開催することで、自治会加入につながったら良い。
- 空きスペースを活用し、児童キャンプ体験。(防災・自治につながる)

【その他】

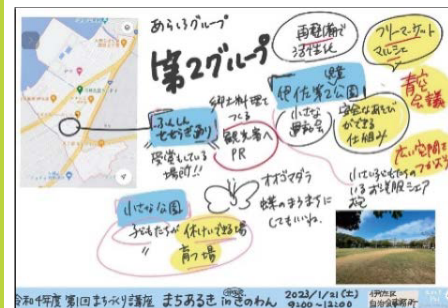
- 広い敷地でイベントを実施。まちのにぎわいを作りたい。(駐車場の活用)
- ヤギや犬などの生き物を飼育し、子どもも楽しめる場づくり(ポケットパークの活用)
- 軽便鉄道のあとを地域のPRに活用する。

令和5年1月21日(土)開催

伊佐区周辺のまちを歩き、公共空間を活用した「今からできること」について、意見交換を行いました。



意見交換した結果は、視覚的に分かりやすく取りまとめを行いました。



第2回 フリースペースを活用した賑わいの場づくり

令和5年2月17日(金)開催

【講師】 宋 俊煥 様 山口大学 大学院創成科学研究科 准教授

そん じゅんふあん

賑わいの場づくりとなる空間はどうつくるべきか、また、どのような取組みを進めることが重要なのか、全国の事例や講師の実体験を踏まえて講演がなされ、参加者の皆さまと意見交換を行い、非常に活発な講座となりました。

(講義内容より) 賑わいの場をつくるためのポイント

1. 様々な団体が力を合わせ1つの事業をつくる。
2. 地域の将来像づくりが重要である。

空間をいかにうまく活用するかという観点で、エリアマネジメントが今後重要な役割を占めることになる。特に「活動の見える化」が重要であり、人が集まり話し合うきっかけにつながる。また、応援者からイベントのプレーヤーへ引き上げる取組みにつながる。



講座のようす

当日のようすは、以下のURL又はQRコードからご視聴いただけます。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=rqdb74VYOhU>



普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて 先進地視察を実施しました

若手の会と、ねたてのまちベースミーティング(以下、NBミーティング)の、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化を目的に、今回3年ぶりに先進地視察会を実施しました。

ここでは、今回の視察先のうち、まち全体の価値を高める取組を進めている「グリーンスプリングス(東京都立川市)」の事例について、ご紹介します。

グリーンスプリングス(東京都立川市)

立川市(東京都)の新スポットとして、旧国有地跡地(旧立川飛行場)に建てられた大規模複合施設です。

隣接する国営昭和記念公園の緑と街区内の緑を連続的に繋ぎあわせ、さらに歩車分離の図られた広場環境は、多くの市民の憩いの場になっています。目先の利益ではなく「空と大地と人がつながる、ウェルビーイング」を軸に、まち全体の価値を高める取組を進めています。



商業エリアの一等地を誰でも使えるよう開放することで、まちの滞在時間が向上します。

【施設の特徴】

- ・デザインコンセプトは「町の縁側」
- ・空を大事にした開発を実施することで解放感のある空間が生まれおり、24時間楽しめるまちとして極力24時間開放しています。
- ・照明にこだわったライトデザインで、昼と夜の印象が異なる施設をつくりあげています。
- ・国営昭和記念公園と連続した緑空間を構成して上質な空間を形成することで、まちの価値が上がっています。

▶右写真

グリーンスプリングスと国営昭和記念公園



国営昭和記念公園

▼下写真

かつてこの地にあった飛行場の「滑走路」をモチーフにしたカスケード(階段状スロープ)。(左は昼間、右は夜間)

